

2020年10月1日

関係者各位

独立行政法人国立科学博物館
標本資料センター 細矢 剛

第35回自然史標本データ整備事業による標本情報の発信に関する研究会の開催について（案内）

平素より自然史標本データ整備事業にご協力下さり、ありがとうございます。

第35回自然史標本データ整備事業による標本情報の発信に関する研究会を下記のとおり Zoom を利用して開催します。

例年、6月に自然史標本情報の発信に関する研究会を開催しておりますが、本年は新型コロナ対策のため、対面集会による開催を見合わせ、ウェビナーの形で開催させていただくことに変更させていただき、次の日程にて開催します。バーチャルの利点を活かし、2日に分けてGBIF/S-Netの利活用とデータ提供の両面から紹介させていただきます。2日に分けて開催します。どちらか片方だけの参加も可能です。

データ提供者からユーザーまで、多くの皆様のご参加をお待ち致しております。お申し込みは、以下のサイトまでお願いします。

記

日時： ①データ利用編：2020年11月14日（土） 17時00分～18時

②データ提出編：2020年11月15日（日） 17時00分～18時

場所： Zoomによるインターネットウェビナー

事前申し込み：<https://forms.gle/6fR94EYu2ieCefHdA>

※受付後、折返し Zoom の URL をお知らせします。

申込締め切り：2020年11月9日（月）9:00

主催： 国立科学博物館

協力： NPO法人西日本自然史系博物館ネットワーク

プログラムは別紙をご覧ください

本件に関する連絡先

国立科学博物館

細矢 剛・高田 悠希

電話：029-853-8277

E-mail：s-net_info@kahaku.go.jp

第 35 回 自然史標本情報発信に関する研究会
—GBIF 関連サイトの使い方とより品質の高いデータ提供のためのテクニック—

S-Net には現在 550 万を超える標本データが、GBIF からは 16 億近くのおカレンスデータが提供されており、さらにデータ数が伸び続けており、「貯める」から「使う」へのシフトは明らかです。その一方で、精度が低いデータや、誤りのあるデータがあることも事実で、データの品質向上が求められます。そこで、今回のウェビナーでは、データ利用の代表的な方法である「地図に落とす」方法や、データ提供に関するチェック法などを提供させていただき、参考に供します。

今回の会合を通じて、より品質の高いデータ提供と、一層のデータ活用に結びつketく思います。

バーチャル会合の利点を活かし、2 日に分けて開催します。どちらか片方だけの参加も可能です。

データ活用編 2020 年 11 月 14 日 (土) 17:00~18:00

- 1) GBIF/S-Net ご紹介 (科博・細矢) 10 分
- 2) S-Net のデータ検索とダウンロード・地図に落とす (科博・細矢) 20 分
- 3) GBIF データのダウンロード、利用例 (科博・水沼) 20 分
- 4) 質疑応答 10 分

データ提出編 2020 年 11 月 15 日 17:00~18:00

- 1) データクリーニングのポイント (科博・細矢) 15 分
- 2) 問題あるデータのチェックポイント (科博・細矢) 15 分
- 3) 新しいレッドデータ種チェックシステムの紹介 (科博・水沼) 15 分
- 4) GBIF サイトを使った学名チェック (科博・細矢) 15 分

ご参加いただくには、事前のお申し込みが必要です。

下記のサイトより、お申し込みいただければ幸いです。

事前申し込み：<https://forms.gle/6fR94EYu2ieCefHdA>

※受付後、折返し Zoom の URL をお知らせします。